

島根県で初の受賞！

岩地正男氏(浜田市)が 第36回「森喜作賞」を受賞

～きのこ類の研究者や経営者を顕彰する全国最高位の賞～

森喜作賞は、しいたけ等きのこ類の普及・振興の功労者である、故森喜作農学博士の遺志を継承し、昭和54年に公益信託森喜作記念椎茸振興基金を発足させ、しいたけ等きのこ類の調査研究者や優良経営者を顕彰し、我国のしいたけ産業の振興に寄与することを目的とした、きのこ類関係者では全国で最高位の賞です。

毎年、調査研究部門1名、優良経営部門1名が受賞し、岩地正男氏は、優良経営部門で受賞されました。島根県では初の受賞です。

岩地正男氏は、昭和47年から平成9年まで農協に勤務されていましたが、その時学んだしいたけ栽培の知識を活かし、50歳で専業しいたけ生産者となりました。

経営の特徴は、優れた技術ときめ細やかな管理による高品質な乾しいたけ生産で、ほだ木1万3千本を所有し、年間500kg～600kgの生産は、県内トップレベルです。

徹底した管理で作られる乾しいたけは、「山のアワビ」と称されるほどの肉厚で、食感や味、色合いは最上質と定評があります。全国乾椎茸品評会、島根県乾椎茸品評会においても数多くの受賞歴があります。

今後も、人工ほだ場の設置等による、高品質で安定的な乾しいたけ生産を期待しています。



授賞式 平成26年7月8日(東京)



知事への受賞報告



人工ほだ場での収穫作業



島根県乾椎茸品評会 知事賞

県内森林組合では初の受賞！

邑智郡森林組合が農林水産大臣賞を受賞

～第53回全国林業経営推奨行事～

公益社団法人大日本山林会が行う第53回全国林業経営推奨行事において、邑智郡森林組合が農林水産大臣賞を受賞し、平成26年11月21日東京において表彰されました。

県内森林組合が大臣賞を受賞するのは今回が初めてです。(個人を含めると8例目)

○全国林業経営推奨行事

昭和37年から農林水産祭参加行事として公益社団法人大日本山林会主催で始まりました。森林の適正な管理や林業の技術・経営の改善に努め、森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な発展に寄与している個人・団体等各都道府県の推薦を受け書類を提出し、審査され、優秀と認められる経営体に対して、農林水産大臣賞、林野庁長官賞、大日本山林会長賞が授与されます



受賞された大石代表理事組合長

○選考方法

審査委員会が参加申込書や推薦調書などの書類及び現地調査により、下記項目について評価・採点を行い成績・順位を決定します。

[評価・採点項目]

- | | |
|---------------------|--------------|
| ①経営目標・実行形態 | ②管理・経営の計画・実行 |
| ③新たな視点に立った森林施業の取り組み | ④地域に対する貢献等 |

今回は全国から33名(個人・団体)が推薦され、8名が農林水産大臣賞を受賞しました。

○邑智郡森林組合が評価された点

- ・循環型林業の確立を目指して、森林整備、原木生産、森林施業プランナー育成、木材加工品生産等の具体的目標が明確に示され、職員・現場作業員が一丸となって事業を展開。
- ・森林整備事業をはじめ、木材・チップ・しいたけ菌床・バーク堆肥生産など多角的にバランス良く事業を展開し、雇用者数や取扱高など県内でトップクラス。
- ・森林施業プランナーによる提案型集約化施業の実行に力を入れており、先進的・モデル的な活動を展開。
- ・利用間伐事業を主体に、現場と事務所が一体となったの工程管理等を実行し、現場の「見える化」に取り組むとともに、高性能林業機械や人員の配置を創意工夫し、独自の作業システムを構築。(自称「分業型作業システム」)



プランナーと現場技術者の打合せ

○大石良典代表理事組合長の抱負

今回の受賞を契機にさらに森林組合経営に尽力し、組合員との信頼関係をさらに強め、各種目標の達成や循環型林業の確立等を目指し、職員・現場作業員が一丸となって取り組みますので、これまで以上に関係者の皆様からのご指導をお願いいたします。